

株主の皆様へ

第60期 報告書

令和5年4月1日～令和6年3月31日



ありがとう日本最後の立山トンネルトロリーバス（令和6年最終運行）

立山黒部貫光株式会社



株主の皆様へ

代表取締役社長 見角 要

皆さまには、日頃より、当社事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第60期報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

令和5年度は、長期化するウクライナ紛争など、国際情勢の不安定さに拍車がかかると共に、円安の進行とも相まってエネルギー価格・物価の高騰などが続きましたが、観光業界においては、新型コロナの水際対策の終了や5類感染症への移行が追い風となり、本格的な旅行需要の回復がみられました。

そうした中、当期の立山黒部アルペンルートは昨年同様、4月15日に立山駅～信濃大町駅間の全線において営業を再開し、11月30日まで営業いたしました。

営業の推移を概観いたしますと、コロナ禍以降実に4年ぶりに多くのお客さまで賑わい、夏には豪雨や台風の影響があったものの、紅葉期以降も多くのお客さまにご利用いただき、営業シーズンを終えることができました。

この結果、当期の入り込み人員は合計711千人（前期比148%、230千人増）となり、また、入り込み方面別では、富山入り込みが352千人（前期比155%）、大町入り込みが359千人（前期比142%）となりました。

旅客の内訳では、国内旅客においては、積極的なプロモーション活動やSNSを活用した情報の発信、早期予約型のWEBきっぷ「早割10」の発売などが奏功し、国内旅客全体の入り込み人員は532千人（前期比112%、59千人増）となりました。

一方、海外旅客においては、入国制限の撤廃や円安の影響もあり、国別では例年利用の多い台湾の他、チャーター便が順調であった韓国、認知度が高まる東南アジアを中心に旅客が増加しました。人気の高い雪の大谷の時期以降も、季節毎の魅力を積極的に発信したことにより、10月以降も順調に推移し、入り込み人員は179千人、前期比2,556%、172千人増）となりました。

3頁の「決算概要」に記載のとおり、当期は5期ぶりの黒字を計上することができましたが、過去4年間の赤字計上により大きく毀損した自己資本を回復し、事業継続可能な財務基盤を再生するとともに、事業設備のリニューアル投資を進めるべく、内部留保の蓄積を最優先とさせていただくため、株主の皆様には誠に申し訳ございませんが、配当金につきましては、無配とさせていただきます。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年度は、さらなる経営基盤の強化を目指し、持続可能な事業運営体制の構築を進めてまいります。

先般、子会社の立山貫光ターミナル株式会社が所有する室堂ターミナルビルについて、株式会社星野リゾート（以下「星野リゾート」）との間で、ホテル立山の不動産譲渡に関し合意いたしました。今後は運輸事業に経営資源を集中するとともに、星野リゾートをビジネスパートナーとして、連携・協働をすることで、立山黒部アルペンルートの中長期的な価値向上を目指してまいります。

なお、ホテル立山は、当面の間、これまで通り立山貫光ターミナル株式会社が運営し、将来的には星野リゾートが新たなホテル運営を行う予定です。同じく室堂ターミナルビル内にある室堂駅（運輸事業、レストラン・売店事業）は引き続き当社グループが所有、運営することとしており、それに伴うターミナル事業のリニューアルにつきましても具体化に向けた検討を進めてまいります。

今年、「立山トンネルトロリーバス」の「ラストイヤー」に関するイベント等をシーズンを通して企画するとともに、北陸新幹線の敦賀延伸や、今後の黒部宇奈月キャニオンの一般開放に向けて、これらとも連携しながらさらなる旅客誘致に努めてまいります。

季節ごとの魅力にあふれた観光資源を磨き上げ、富山県・近隣県・関係市町村・関係機関などのご協力をいただきながら、観光コンテンツの拡充を図り、当社の強みである旅行会社や運輸機関との幅広いネットワークやメディアを活用し、シーズンを通じてより多くのお客様にお越しいただけるよう努めてまいります。

個人旅客向けの「WEBきっぷ」については、事前予約により安心・快適に旅を楽しんでいただけるよう趣向を凝らし、さらに販売を強化してまいります。

人材育成においては、アルペンルート事業を長期的に支える人的基盤を強化するべく、運転手や技術・IT関連人材を中心に経験者採用を継続するとともに、雇用条件、処遇の改善、新たな人事評価制度の導入、若手社員へのサポート体制の強化を図ってまいります。

世界に類のない山岳観光地で運輸事業を営む当社では、今後も全職場において、継続的に安全・安心の管理と教育を徹底するとともに、乗り物施設の安全対策や弥陀ヶ原火山災害発生リスクに対し、行政および関係機関と連携しながら、施設調査や対策の検討、災害対応体制の構築、避難確保計画の策定などを進めてまいります。

令和7年度に新たに導入する電気バスの運行における安全対策や運行指令管理体制についても、整備を進めてまいります。

電気バスの導入は、SDGsの主旨である環境負荷低減にも沿うものであり、今後も、カーボンニュートラルの実現に向けて、その知見を事業全般に活かしてまいります。

幾多の先人の方々が築き上げてきた「立山黒部アルペンルート」を、持続可能な観光地へとさらに進化させるため、選ばれる観光地であり続けるべく、高品質な観光コンテンツの造成、持続可能な企業であるための事業収益力の確保、安全・安心な運行体制の構築、そして大自然立山の自然環境保全に、役職員一同全力を傾注してまいります。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

決算概要 (記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。)

【単体】

損益概要

(単位:百万円)

	令和 5年度	前期差	令和 4年度
営業収益	4,197	1,959	2,237
営業費	3,420	490	2,929
営業利益 (△は損失)	777	1,469	△692
経常利益 (△は損失)	850	1,446	△595
当期純利益 (△は損失)	1,182	1,785	△602

資産・負債概要

(単位:百万円)

	令和 5年度	前期差	令和 4年度
資産の部	9,347	345	9,001
流動資産	3,380	598	2,781
固定資産	5,967	△252	6,219
負債の部	7,503	△863	8,366
流動負債	1,531	374	1,157
固定負債	5,972	△1,237	7,209
純資産の部	1,843	1,208	635

旅行需要の回復に加え、当期の営業再開に先立ち、昨今のエネルギーや資材価格高騰の下、全線開業50年余を経ている運輸施設等の安全確保、環境負荷低減等に必要不可欠な修繕や設備投資を実施していくため、鋼索鉄道線、自動車線、普通索道線の運賃改定をおこなった効果もあり、今期の営業収益は、41億97百万円（前期比188%）となりました。

一方、営業費につきましては、エネルギー価格高騰などの影響もありましたが、経営全般にわたる業務の効率化、要員体制の見直しなど、スリムな運営体質の構築に努めた結果、営業費合計は34億20百万円（前期比117%）となり、営業利益は7億77百万円となりました。

これに、営業外収益1億49百万円、営業外費用75百万円を加減した当期の経常利益は8億50百万円となりました。

さらに、事業整理損等の特別損失、また法人税等ならびに税効果会計による法人税等調整額を加減した結果、11億82百万円の当期純利益を計上することとなりました。

【連結】 連結子会社：立山貫光ターミナル㈱、立山黒部サービス㈱

損益概要

(単位:百万円)

	令和 5年度	前期差	令和 4年度
営業収益	5,958	2,471	3,486
営業費	4,944	847	4,096
営業利益 (△は損失)	1,013	1,623	△610
経常利益 (△は損失)	1,083	1,645	△562
親会社株主に 帰属する当期純 利益(△は損失)	1,437	2,018	△580

資産・負債概要

(単位:百万円)

	令和 5年度	前期差	令和 4年度
資産の部	10,574	766	9,807
流動資産	3,988	815	3,173
固定資産	6,586	△48	6,634
負債の部	8,335	△858	9,194
流動負債	1,733	461	1,272
固定負債	6,602	△1,320	7,922
純資産の部	2,238	1,625	612

連結子会社の損益概要

(単位:百万円)

	立山貫光ターミナル㈱	立山黒部サービス㈱
営業収益	1,909	84
営業費	1,705	76
営業利益(△は損失)	204	7
経常利益(△は損失)	214	7
当期純利益(△は損失)	336	4

営業概況

■入り込み人員

(単位:千人)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
富山入り込み	152	227	352
大町入り込み	152	253	359
入り込み人員合計	304	480	711
内、当社線入り込み人員	203	340	534

会社概要 (令和6年3月末現在)

- 所在地 〒930-8558 富山県富山市桜町一丁目1番36号
- 電話 (076) 441-3331
- 設立日 昭和39年12月25日
- 事業目的 自動車運送事業、鉄道・軌道及び索道事業、ホテル・旅館事業、売店・食堂その他飲食物販売業、旅行業法に基づく旅行業
- 資本金 1億円
- 発行済株式総数 8,973,238株 (自己株式318,430株を除く)
- 株主数 1,410名
- 役員 (令和6年6月27日現在)

代表取締役社長	見角 要	
常務取締役	田草川健二	(経営管理本部長・経営企画部長・経理部担当・営業推進部担当)
常務取締役	大谷 真一	(経営管理本部副本部長・ホテル事業委託部長)
常務取締役	川高 健裕	(経営管理本部副本部長・プロジェクト推進室長)
取締役	新田 八朗	
取締役	金井 豊	
取締役	麦野 英順	
取締役	宮本 信之	
取締役	中田 邦彦	
取締役	藤井 裕久	
取締役	牛越 徹	
取締役	小山 輝行	
取締役	杉林 義宏	(技術環境部長・運輸事業部担当)
取締役	内山 高宏	(総務部長)
監査役	出来田 肇	
監査役	舟橋 貴之	
監査役	新庄 一洋	

株主関連

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 6月
- 基準日
 - 株主優待券 2月末日
 - 定時株主総会の議決権 3月31日
 - 期末配当金 3月31日
- 公告掲載新聞 北日本新聞
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人
東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号
日本証券代行株式会社
- 同取次場所
日本証券代行株式会社 支店
三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
- お問合せ・送付先
〒168-8620
東京都杉並区和泉2-8-4
日本証券代行株式会社 代理人部
0120-707-843 (フリーダイヤル)

単元未満株式買取・買増制度のご案内

当社では、単元未満株式（100株未満）をご所有の株主の皆様のご便宜を図るため、単元未満株式の買取および買増制度を行っております。

<単元未満株式の買取り>

株主様がお持ちになっている単元未満株式を、当社が買い取らせていただきます。

<単元未満株式の買増し>

株主様がお持ちになっている単元未満株式と合わせて1単元（100株）となる株式を当社が株主様に売却いたします。

お手続きの詳細につきましては、上記**日本証券代行(株) 代理人部**までお問い合わせください。

株主優待制度

ご所有株式数	優待乗車券・乗車証			ホテル宿泊 ご優待割引券
	種 類	通用区間	発行枚数	
100株～150株未満	優待乗車券(片道)	立山～室堂	1枚	2枚
150株～300株未満	優待乗車券(片道)	立山～室堂	2枚	2枚
300株～400株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	2枚	2枚
400株～600株未満	優待乗車券(片道)	立山～室堂 立山～黒部湖	2枚 2枚	2枚
600株～800株未満	優待乗車券(片道)	立山～室堂 立山～黒部湖	2枚 4枚	2枚
800株～1,000株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	6枚	2枚
1,000株～2,000株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	8枚	4枚
2,000株～3,000株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	16枚	4枚
3,000株以上	優待乗車券(片道) 優待乗車証(記名式)	立山～黒部湖	24枚 1枚	6枚

- 優待有効期間：各年度 営業期間中
- 各券のご利用方法につきましては、各券面記載事項をご覧ください。

～旧「立山開発鉄道株式会社」株券をお持ちの株主様～

当社では、合併により消滅した立山開発鉄道株式会社の株券と、当社株券との引換えを行っております。まだ引換えのお済みでない株主様は、新株券との引換えをお願い申し上げます。

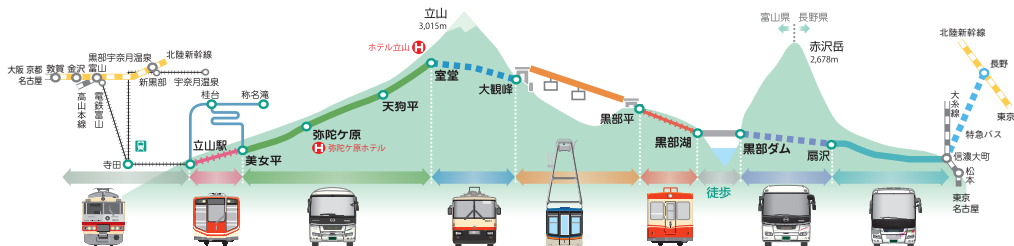
なお、引換えのお手続きにつきましては、**日本証券代行(株) 代理人部**までお問い合わせください。

立山黒部アルペンルートのご案内

● 立山黒部アルペンルート公式サイト
<https://www.alpen-route.com>



「富山駅」から「長野駅」までいろいろ乗り継ぐ立山黒部アルペンルート。
 気軽に標高3,000メートル級の立山連峰の絶景が楽しめます。
 事前に乗車予約ができる安心・便利な「WEBきっぷ」のご利用がおすすめです。



乗物	電 車 電鉄富山～立山	立山 ケーブルカー	立山高原 バス	立山トンネル トロリーバス	立山 ロープウェイ	黒部 ケーブルカー	(徒歩)	関電トンネル 電気バス	路線バス (原沢～信濃大町)
キロ (時間)	31.3km (65分)	1.3km (7分)	23km (50分)	3.7km (10分)	1.7km (7分)	0.8km (5分)	0.6km	6.1km (16分)	18km (40分)
運 賃 お ま け な	片道	1,230円	1,090円	3,000円	2,200円	1,700円		1,800円	1,650円
	往復	2,460円	1,980円	5,400円	3,960円	3,060円		3,200円	2,950円

グループのホテル



ホテル立山
 〒930-1414 富山県中新川郡立山町芦崎寺室堂
 ☎(076) 463-3345 FAX(076) 463-3348
<https://h-tateyama.alpen-route.co.jp/>

弥陀ヶ原ホテル (ホテル立山姉妹館)
 〒930-1412 富山県中新川郡立山町芦崎寺弥陀ヶ原
 ☎(076) 442-2222 FAX(076) 442-2242
<https://midagahara.alpen-route.co.jp/>



主な事業所

本社
 〒930-8558 富山県富山市校町1-1-36
 ☎(076) 441-3331 (代表) FAX(076) 433-1185

東日本営業所
 〒102-0081 東京都千代田区四番町4-9 東越伯鷹ビル3階
 ☎(03) 3262-7028 FAX(03) 3265-5285

西日本営業所
 〒550-0004 大阪府大阪市西区鞠本町1-9-15 近畿富山会館2階
 ☎(06) 6445-0359 FAX(06) 6445-0398

運輸事業部
 〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦崎寺千寿ヶ原
 ☎(076) 481-1173 FAX(076) 481-1185

大町事業所
 〒398-0002 長野県大町市大町3226-2
 ☎(0261) 22-0198 FAX(0261) 23-2967